発行：2025年10月31日

会 議 議 事 録

会議名	2025年度第2回 東京工科自動車大学校三校 教育課程編成委員会		専門学校 東京工科自動車大学校 専門学校 東京工科自動車大学校世田谷校 専門学校 東京工科自動車大学校品川校
開催日時	2025年10月3日（金） 15:00 ～ 17:00		
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ（姉妹校） テラホール（B1）		
参 加 者	委員	17名	【出席者 15 名】 ◇1 級教育課程分科会 ・佐藤 康夫（全体会議長、1 級分科会議長） ・園田 幸祐 ・保田 正義 ・在田 泰彦 ・宮谷 真樹 ・庄司 圭太朗 ・吉岡 晃（書記） ◇2 級教育課程分科会 ・澁谷 健（2 級分科会議長） ・松村 道隆 ・国分 秀貴 ・山岸 幸弘 ・池田 昌繁 ・清 宏一郎 ・麻野 利治（書記） 【欠席者 5 名】 ・伏見 一洋 ・橋本 望 ・井上 真一 ・蓬田 誠 ・佐藤 岳人
	事務局	4名	・荻野 洸介 ・村山 健 ・和泉 明日香（全体会書記） ・田中 健司

―――――――――――― 全体会 ――――――――――――

全体会
配布資料

〈配布資料〉
・議事次第
・資料A・・・全体会説明資料（パワーポイント）
・資料B・・・前回議事録

委員長挨拶

荻野部長より、本日のスケジュールおよび全体会・分科会の会場について説明があり、その後、佐藤委員長に進行が引き継がれ、全体会が開始された。
冒頭、佐藤委員長より、教材の提供や教員の派遣等、カリキュラム運営へのご協力に対する謝辞が述べられた。

教育課程編成委員会の位置づけについて

教育課程編成委員会は、職業実践専門課程に認定された学校として、カリキュラムを適切に編成し、質の高い教育を企業との連携のもとで実施するため、企業からのご意見をいただく場としての役割を果たしていることが説明された。
また、当該課程は文部科学省の認定を受けるものであり、全国の専門学校のうち約 4 割が認定を得ている状況であることが報告された。

令和 7 年度
教育活動の進捗

（就職内定状況）
9月下旬時点において、企業による積極的な採用活動もあり、昨年度より内定率がやや上昇していることが報告された。
一方で、学園の目標である「8月末までに就職内定率100%」の早期就職は未達であり、次年度以降も継続的に取り組んでいく必要があるとされた。
現時点で内定を得ていない学生については、中野校はレース関係の内定待ち、品川校はHD地方受験等が残っている状況である。

	（履修状況） 9月下旬時点における通期出席率および退学率は例年並みであることが確認された。今後も改善に努めていく方針が示された。 また、今年度の学園祭（TTCフェスティバル）は10月25日（土）に4校同日開催する予定であることが報告された。 （企業連携教育） 実施内容および今後の予定が示され、例年通り企業からの協力を得ながら実施している旨が報告された。 （その他） （国土交通省自動車整備士検定規則の一部改正） 自動車整備士検定規則の一部改正にともない、カリキュラムの改訂が進められていることが報告され、来年度は2年生のカリキュラムに着手する予定であるとの説明があった。 また、現1年生が卒業する時期に、新制度の試験が開始される見込みであることが示された。 （文部科学省学校教育法の改正について） 「生徒」から「学生」への呼称変更や、単位制（31単位）の導入が進められていることが報告された。これにより、専門学校が高等教育機関と同等の立場となり、大学編入や大学院進学など多様な進路選択が可能になる一方、外部評価が義務付けられるなど、より厳格に評価されるようになることが示された。 また、科目ごとの単位数整備などに伴い、学則変更への対応を進めていく予定であることが説明された。
前回議事録確認	第1回議事録について確認が行われ、承認された。
分科会議長・書記の選出	分科会の議長および書記の選出が行われ、承認された。 （1級課程分科会） 議長：佐藤委員長、初期：吉岡委員 「1級カリキュラムの高度化について（1級課程におけるCASEカリキュラム導入について）」 （2級課程分科会） 議長：澁谷委員、書記：麻野(高橋委員代理) ① 二級新カリキュラム進捗報告（継続） ② 次年度4期制以降に伴う「就職対策講座」の改編について 以上

会　議　議　事　録

1級分科会	―――――――――――――― 1級教育課程分科会 ――――――――――――――
配布資料	＜配布資料＞ ●令和７年第１回一級教育課程分科会議事録資料
	１．協議内容について及び参照資料についての説明 （佐藤議長） 分科会では次回も同じメンバーでの継続をお願いする。あわせてＣＡＳＥに関する議題は今回で最終とする。
報告事項	（園田副議長） 中野校３，４学生ＣＡＳＥについてのアンケート結果を踏まえご意見をいただきたい。 ※前回絞り込んだ内容でのアンケート実施を踏まえて ①自動運転・先進運転支援技術について ②電動化について 上記について企業側から提供可能な部分を相談したい。 具体的には、併設施設設備などでの研修をイメージしている （Ｔラボのような研修施設など） **２．提供可能な体験及び研修内容についての意見** （学外委員１） 開催の方法、時期、回数は何回を予定しているのか。 （園田副議長） 実施してみて、都度改善したい。３年生を中心として行いたい。 特に３年生は分解実習、動きに飢えている。 （佐藤議長） ３年生はいわば中弛みしている感があり、あわせて授業内容が難解である。（分解作業が少ない・電気回路の授業が多いため）動きのあるインパクトをもつカリキュラムが必要。 （学外委員１） 環境が整えられれば。自動運転などの体験は可能。車両提供は可能。ただし、場所を確保するのが難しい。 電動化故障診断などは、見学になるため、バッテリーの脱着作業であれば、飽きることなくできるのではないか。 （学外委員２） 時期は、いつがよいか。場所の確保が難しいため御校系列の自動車学校はどうか。 シミュレータの使用も検討しては。感覚としては掴めるとおもう。 （園田副議長） 夏休み時期、盆前又は、年始が校のスケジュール的によいと考えている。

協議事項	自動車学校は常に繁忙であり、難しいため、ミニサーキットなどがよいのではないかと考えている。 やはり学生は、実車の希望が多い。 （学外委員３） 楽しいだけではない、授業として成立が必要ではないか。実績としては、ハンズオフ（レクサスＬＳ）診断機を見ながら走行、学生同乗など、分解作業については、旧型車両であればできる可能性がある。多くの車両は用意できないし数に制約ありがある。ちなみにシミュレータでは、自動運転のハンズオフ、自動ブレーキなどが可 （学外委員４） 会場の紹介はできる　日本自動車協会ＪＡＲＩ　日野自動車テストコース羽村、三鷹スバル、茂木サーキット、福島いわきテストコース（あけぼのブレーキ）、ＪＫＮドライブインジャパンテストコース（茨木）、ＵＤトラック（顧客向け市場コース）など。あわせて、郊外の自動車学校なども検討してはどうか。 （園田副議長） 富士スピードウェイのコースで、品川校が体験を行っている。（低μ路体験） （学外委員１） 教材となる車両に限りがある。複数の会社での共同実施であれば幅もひろがるのでは。 （園田副議長） 校のスケジュールに照らし合わしてまとめると、場所と車両確保し、１～２日で開催が望ましい。３校ともに３年生を対象として。 （学外委員３） １級科の授業として成立させること（内容の吟味）が難しいと考えている、（必要なカリキュラムに沿っているか） （園田副議長） メーカー系学校では最新車両を試乗して挙動を体感できるメリットがある。 他方で、当校のメーカー問わず各社の違いを学べることは、メーカー校にはない大きな強みであると考えている（後援会企業様の協力で） （佐藤議長） 実現可能なものを具体的に精査し、　シミュレータ・実車公道・コース・技術（実習作業）各メーカーによる分類分けをして、今一度提示しご意見をいただく必要がある。 （学内委員吉岡） 各企業の皆様には、ＡＤＡＳのデータ解析、分析などの項目についても是非お考えいただいたい。自動ブレーキなどのシステムに関するユーザーの誤認識や、誤作動によるお客様への説明が現場レベルで求められているのも事実。 （学外委員１） 学生さんには運転技術向上のため、機能的なもの別におこなってはどうか。 現在、ＨＶの普及率は非常に高いため、先行した知識も必要だが、ベーシックな内容の研修も必要ではないか。 （学外委員４） 現在はＰＨＥＶ系が主流であり、前個体電池が普及するまではＥＶの普及は遅れる見

	通し。ＨＶに対する知識の構築は急務であると考える。 （佐藤議長） １級課程で必要なカリキュラムについて、体験だけではなく車両実習（分解・組立を伴うもの）も必要だと考える。この部分では企業様からのご協力が不可欠であると考える。 **３．新カリキュラム構築に必要な要素と次回議題の方向性まとめ** （佐藤議長） 次回議題の方向性として、以下の内容を踏まえて検討する。 Ⅰ．企業連携授業の内容ついては、どんな場所でどんなものができるかを各メーカーにより分類分けを行い、内容を精査しご意見を引き続きいただきながら形作ることとする。 Ⅱ．来年度の一級小型自動車整備士新教科書の内容をもとに新たなテーマを決める事とする。

会　議　議　事　録	
２級分科会	―――――――――――――　２級教育課程分科会　―――――――――――――
配布資料 確認	**配布資料の確認** -分化会テーマ 2025 授業資料作成進捗一覧表
議長	**議長挨拶・委員紹介** - 委員自己紹介および欠席連絡を実施 - 新カリキュラムに基づく授業が開始しており、今週より第 2 期がスタートしている
審議事項	**二級新カリキュラム進捗報告（継続）** 教務部長より報告 -整備士資格制度の変更に伴い今年度1年生より新カリキュラムで授業運営を実施 -授業資料の準備状況として、1年次のコマシラバス・履修判定試験共に既に出来上がっている 授業運営管理 ・各校 1 コマ毎授業運営は担当教員が行う（カルテ・解答・サブテキスト・PPT） ・履修判定試験の結果を分析（SP 分析票等）問題の確認 ・分析結果をフィードバックし、次年度ブラシュアップ（PDCA サイクル） ・事業資料のベースは校長・教務部長・副校長が作成 ・2026 年度（2 年次）新カリキュラムも作成中。並行して 1 級科 3 年次、4 年次に着手する ・次回 1 年次分析結果の報告をする 質疑応答 - 特になし。 **次年度 4 期制に伴う就職対策講座の改変について** 議長より従来の就職対策講座の内容説明を行ない、改変にあたり各委員より下記の項目について 意見を募った ＜項目＞ 1.近年の応募学生について 2.選考過程での評価ポイント 3.マッチング・定着面 4.今後への期待・要望 1. 各委員からのコメント

	委員 A：自己分析と面接練習の不足を指摘。アルバイトを通じた上下関係や報連相の習得、手書き履歴書による誠実さを重視。 委員 B：志望動機の具体性欠如と筆記試験の学力低下を懸念。一方で、待遇面（休日・給与）への関心高まりは許容範囲との見解。 委員 C：デジタル化への理解を示す（履歴書不問）。主体性やチームワーク、目標（社内資格等）を持つことによる定着率向上を強調。 委員 D：想定外の質問への対応力と精神的な打たれ弱さを課題視。第一志望でなくとも熱意を伝える姿勢を評価。 2．委員の共通見解 ・選考基準：家族・宗教等の機微情報は避けるが、身だしなみ（髭・タトゥー）は入社後厳禁。元気な挨拶は高評価。 ・アルバイト：職種は不問だが、コミュニケーションやトラブル対処経験が重要。 3．就職プログラムへの指導要望 ・キャリアビジョン：定着率向上のため、将来の目的意識を深掘りさせる。 ・本質の追求：「なぜ」を考える力を養い、形式的でない報連相を定着させる。 ・ビジネス倫理：退職代行等に頼らない、正しい退職手続き（マナー）の指導。 ・AI・発信力：AI を鵜呑みにせず精査する思考力と、書く・話す力の強化。 ・留学生支援：人物採用を前提とし、入社までの日本語能力向上を強く要望。 ■ 結論・課題 結論 ・次年度からの対策講座は、従来の「模範解答の暗記」から、「思考力とアウトプットの習慣化」へ軸足を移す必要がある。 ・企業側は、学生の表面的なスキル（身だしなみや想定問答）よりも、「なぜその仕事をしたいのか」や「想定外の事態への適応力」をよりシビアに評価する傾向にある。 今後の課題 ・二極化する履歴書形式への対応：手書き（誠実さ重視）とデジタル（効率・内容重視）の双方に対応できる柔軟な指導体制の構築。 ・AI リテラシーの教育：AI 依存の「思考停止」と「自己 PR の形骸化」の防止。 ・定着支援教育：早期離職を防ぐため、入社後のキャリアパス形成と、退職作法を含むビジネスマナーの徹底。 ・留学生の日本語力強化：専門技術とは別に、対人折衝が可能なレベルまでの日本語コミュニケーション教育の拡充。 -以上をもとに継続して検討する。追加意見等あれば事務局までお願いしたい。 **次回案内・閉会（議長）**